

Arts Council Tokyo 10

アーツカウンシル東京の10年
2012-2021

Years 2012-2021

公益財団法人東京都歴史文化財団

10 Arts Council Tokyo Years

ARTS COUNCIL TOKYO

はじめに

01

2012（平成24）年11月1日にアーツカウンシル東京が発足して10年が経過した。このタイミングで草創期の10年を振り返ることは、今後の展開を考える上でとても重要なことと思われる。そこで、アーツカウンシル東京が毎年作成している事業報告書を拠り所に、これまでの取組とその成果を簡潔にまとめてみた。

この間、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開かれ、全世界がコロナ禍に見舞われることとなった。そうした状況の中で、アーツカウンシル東京は、これからの東京の、ひいては日本の芸術文化の振興にどのような役割を果たしていくべきか。そのことを考える縁となれば幸いである。

公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京



[概況]

2012
平成 24 年

■ 初年度は、助成事業として「東京芸術文化創造発信助成」、パイロット事業として人材育成事業のアーツアカデミーと伝統芸能関連事業 2 本、企画戦略事業としてアーツカウンシル・フォーラムと調査研究を実施した。

2013
平成 25 年

■ **2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の東京招致**が決まる。
■ 「東京芸術文化創造発信助成」では、単年助成に加え、長期助成プログラムを開始。単年助成も年 2 回の公募とした。

2014
平成 26 年

■ 立ち上げ期の 3 年間（2012～2014）は、助成事業、パイロット事業及び企画戦略事業の 3 本柱で事業を展開した。

2015
平成 27 年

■ **東京文化発信プロジェクト室と組織統合し事業を再編。**アーツカウンシル東京として、芸術文化創造・発信事業を主催することに。幅広い分野におけるフェスティバルや参加・体験プログラムを実施。また、都内各地に文化創造拠点の形成を図る「東京アートポイント計画」を展開。

■ **東京 2020 大会に向けたリーディングプロジェクトとして、東京キャラバンと TURN を開始。**

■ 子供たちの日本文化理解を促進するための事業や外国人に日本の伝統文化を理解してもらう事業を開始。

■ 助成事業としては、「東京芸術文化創造発信助成」に加え、新たに「東京地域芸術文化助成」と「芸術文化による社会支援助成」を開始。

■ 人材育成事業として、アーツアカデミーのほかに、アートプロジェクトの現場を担う人材育成として「Tokyo Art Research Lab (TARL)」を展開。

■ 2020 年まで、概ね上記の構成で事業を展開した。

2016
平成 28 年

■ **リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピック大会が開催**される。

■ 現地での取組として、「東京キャラバン」「TURN」「リオ伝統芸能公演 TOHOKU&TOKYO in Rio」を実施した。

■ **リオ大会の閉幕後、東京大会に向けた文化プログラムがスタート。**

■ 11 月には復興五輪の一環として東京文化を発信する「Tokyo SHINTORA MATSURI 東京新虎まつり」を開催した。

■ 東京文化プログラムに参画する事業を民間から募り、気運醸成を図るための助成「東京文化プログラム助成」を新たに開始した。（上限 2,000 万円）

2017
平成 29 年

■ 2020 年までの東京都の文化プログラムを「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と総称する。Tokyo Tokyo FESTIVAL (TTF) の中核となる事業として、斬新で独創的な企画を募るため、TTF 企画公募を実施。翌年度に 13 件の企画を採択。

■ Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成(旧東京文化プログラム助成)は、対象をより明確にし、「気運醸成プロジェクト支援」に加え、「市民創造文化活動支援」「海外発文化プロジェクト支援」「未来提案型プロジェクト支援」を新たに実施。

■東京2020大会に向け、民間企業等と連携し、都民の芸術文化活動の発表の機会を創出する事業として、通称トパコ（都民パフォーマーズコーナー）を開始。

2018 平成30年

■TTFをより多くの人に知ってもらうため、各種広報やプロモーションイベント等を実施する、プロモーション・ブランディング事業を開始。

2019 平成31年

■TTF企画公募で採択された13の企画を「TTFスペシャル13」と総称し、一部の事業を先行実施。

■都内区市町村と連携した「Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成：地域文化活動支援」を開始。

2020 令和2年

■新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、多くの事業が延期や中止、変更を余儀なくされた。

■東京2020大会の延期により、TTFの期間を1年延長。

■オンラインの活用により開催方法を見直す事業が多くあった。

■芸術文化活動が思い通りに行えず、窮状が顕在化する中で、支援の必要性が高まり、文化の灯を絶やさないための対策として「アートにエールを！東京プロジェクト」を実施。

2021 令和3年

■東京2020大会の開催に合わせ、TTFスペシャル13をはじめ、TTF事業を展開。

■長引くコロナ禍の中で、オンラインの活用により開催方法を見直しながら、多くの事業を実現。新たな表現様式や楽しみ方、可能性を生み出すことにもつながった。

■新型コロナウイルス感染拡大の影響によるニーズの拡がり等に対応するべく、助成プログラムも拡充。「スタートアップ助成」や「伝統芸能体験活動助成」、「ライフウィズアート助成」などをスタート。

■人材育成事業では、「アーツアカデミー」の「芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座」がオンライン講座としたことで多くの参加があり、「TARL」の映像プログラム「手話講座」が好評を博し、多くの動画再生数を得た。

[数字で見る10年間の実績]

○助成事業

- ・申請件数：5,382件
- ・採択件数：1,630件
- ・交付決定額：約31億3,100万円

○創造・発信事業（2015～2021）

- フェスティバルや参加・体験プログラムの開催
 - ・参加者数：約871万人（オンライン含む）
- 文化創造拠点の形成（東京アートポイント計画）
 - ・プロジェクト数：26
 - ・参加者数：約18万人（オンライン含む）

○人材育成事業（2014～2021）

- ・参加者数：約7,000人（オンライン含む）

[主な取組]

助成事業

- **東京芸術文化創造発信助成**は、東京における多様な創造活動とその担い手の支援を推進するため、設立2年目の2013（平成25）年度からは複数年に渡る長期助成を開始した。
- 2015（平成27）年度には、芸術文化の特性を活かした社会包摂活動や芸術文化を通じて社会課題と向き合う先駆的な活動を支援する**芸術文化による社会支援助成**を開始。また、同年、都内の無形民俗文化財や地域資源を活用した各地域の多彩な芸術文化活動を支援する**東京地域芸術文化助成**を開始。
- 2021（令和3）年度には、新型コロナウイルスの流行が続くなか、特に新進の芸術家や団体に対象を特化した**スタートアップ助成**を新設し、新たな芸術活動へのチャレンジを支援。また、**伝統芸能体験活動助成**を開始し、初めての人でも入り易く、かつ継続的に伝統芸能の実技を自ら体験できる事業を助成。そのほか、**ライフウィズアート助成**を創設し、アート作品を都民の日常生活の中に根付かせ、アーティストの活動領域を広げる基盤整備を進めることで、芸術文化に携わる人材を増やし、好循環を生み出すことにつながる取り組みを支援。
- そのほか、2016（平成28）年度から2020（令和2）年度にかけては、**東京文化プログラム助成（後に Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成）**を実施した（採択件数252件、交付決定額約16億5,000万円）。

フェスティバル事業

- **六本木アートナイト**は、都市型アートフェスティバルの一つの形として定着した。まちづくりの観点からも、六本木を夜の繁華街というイメージからアートの集積した一大拠点というイメージに変貌させた。
- 伝統文化系の事業にも力を入れ、**東京大茶会**を通じて、カジュアルにお茶を楽しむ文化を普及させた。また、**神楽坂まち舞台・大江戸めぐり**では、街なかで伝統芸能に触れる機会を創出し、気軽に楽しむイベントとして定着させた。**伝承のたまてばこ**は、上演する民俗芸能を徐々に、多摩全域に拡大している。
- **Shibuya StreetDance Week**は、ストリートダンサーの聖地である渋谷から、ストリートダンスの魅力や本質的な価値を国内外へ発信し、活力にあふれた街づくりに貢献。
- **東京芸術祭**や**恵比寿映像祭**、**Music Program TOKYO**では、都立文化施設を拠点としたフェスティバルを開催し、それぞれの分野の振興、ファンの拡大に努めた。

参加・体験型事業

- **キッズ伝統芸能体験**や**パフォーマンスキッズ・トーキョー**事業は、子供向けの体験事業の先駆けとなり、伝統芸能やアートの力を通じた子供の成長、能力開発に貢献し、需要を拡大した。
- 東京文化会館の**Music Program TOKYO Workshop Workshop!**では、海外の先進的な文化施設と連携し、ワークショップ・リーダーという担い手育成にも貢献した。

がら、子供から高齢者、障害者まで多様な対象に、音楽の新たな楽しみ方を伝えている。

■東京都美術館では **Museum Start あいうえの**を、東京藝術大学と連携してプログラム開発し、上野地域の文化施設と共同で、子供たちがミュージアムに親しむ機会を提供した。

東京アートポイント計画

■**東京アートポイント計画**は、地域社会を担う NPO 等とアートプロジェクトを展開することで、東京の各地に文化創造拠点を形成する事業。事業開始の 2009（平成 21）年度から 2021（令和 3）年度までに、NPO を中心に 53 団体と 42 件のプロジェクトを共催。

人材育成事業

■**アーツアカデミー**は、研修・講座等に参加した調査員や修了生が全国各地のアーツカウンシル組織や芸術団体、文化施設の担い手人材として活躍。受講による主な成果として、新規事業の立ち上げ、法人設立、助成金獲得、演劇アワードの受賞、主要メディアからの取材の増加等があり、各人のキャリア・アップや芸術文化領域におけるネットワーク形成につながっている。

■**Tokyo Art Research Lab(TARL)**は、事業開始の 2010(平成 22)年度から 2021(令和 3)年度までに 88 の講座シリーズを実施し、671 回の講座を実施。5,418 人が受講した。修了生は東京アートポイント計画をはじめとする都内外のアートプロジェクトのほか、国内のアーツカウンシルや文化施設、芸術祭などで活躍している。

■**タレンツ・トーキョー**は、次世代の巨匠になる可能性を秘めた才能を育成することを目的に、映画作家やプロデューサーを目指す若者を東京に集めて実施。世界で活躍するためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供。修了生の中からは、海外の映画祭で受賞する人材も複数輩出。

国際ネットワーク・企画戦略事業

■毎年、**アーツカウンシル・フォーラム**を開催し、国内外の有識者を招き、ディスカッションと人的交流の機会としている。

■調査研究としては、2014（平成 26）年度から 2017（平成 29）年度まで、「障害のあるアーティストの芸術文化活動」「障害のある人の文化芸術活動と、これからの社会」「障害とパフォーミング・アーツ研究会」を実施。また、アートとメディア、テクノロジーに関する調査研究として、2016(平成 28)年度から 2020(令和 2)年度まで国際シンポジウムを開催。伝統芸能分野では、実演とレクチャー、体験を織り交ぜた「伝統芸能パースペクティブ」を 4 回にわたって実施。

2020（令和 2）年度には、2 つの助成プログラムの成果検証報告書を作成し、次年度以降の助成制度の改善及び新規制度の立ち上げに反映した。

〔設立趣旨に照らして〕

アーツカウンシル東京の3つの設立趣旨に照らして、どのような取組がなされたかを振り返る。

- ① アーツカウンシル東京は、芸術団体や民間団体、NPO等と協力し、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図ります。

取組状況

- アーツカウンシル東京が主催する創造発信事業は、基本的に芸術文化団体やアート NPO等と共催で事業を実施し、民間パートナーの力を最大限活かしながら、各プロジェクトを推進している。

- ② 国際都市東京にふさわしい個性豊かな芸術文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献していきます。

取組状況

- 国際的には、TTF スペシャル13が一つの到達点。
- 地域社会への貢献としては、東京アートポイント計画の拠点形成事業を展開。その他の創造発信事業も、各地の特性を活かしながら、事業を展開。
- 助成事業の各種プログラムを通じて、芸術文化の創造・発信や、社会課題の解決、地域社会や伝統芸能の振興にも貢献。

- ③ 芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的かつ長期的な視点にたち、新たな芸術文化創造の仕組み・環境を整えます。

取組状況

- 支援事業としては、助成プログラムを順次拡充したり、長期助成の仕組みを導入することで、創造環境を整備。
- 人材育成事業を通じて、担い手・支え手の育成にも注力。
- さらに、東京都歴史文化財団事務局で着手したプロジェクトをアーツカウンシル東京で引き継ぎ、「TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト」で、最先端技術を活用した新しい鑑賞体験を提供。シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] の開設・運営により、アートとデジタルテクノロジーの活用を通じて人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点も整備。「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」により、芸術文化領域におけるダイバーシティ、インクルージョンを推進。

[参考資料]

助成事業の推移

2012年	『東京芸術文化創造発信助成』を東京都から移管
2013年	同助成について、年1回公募から年2回に変更（単年助成） 長期助成（2年又は3年）を新設 「芸術創造環境の向上に資する活動」の 카테고리を増設
2015年	『芸術文化による社会支援助成』（補助率 2/3）、『東京地域芸術文化助成』（補助率 1/2）を新設 『東京芸術文化創造発信助成』（補助率 1/2）のうち「芸術創造環境の向上に資する活動」の補助率を 2/3 に変更、美術・映像と伝統芸能分野で個人も助成対象に
2016年	東京 2020 大会に向け、『東京文化プログラム助成（後に『Tokyo Tokyo FESTIVAL助成』）』開始（補助率 1/2 上限 2,000 万円）
2020年	『東京芸術文化創造発信助成』の個人助成を全分野に拡大
2021年	『スタートアップ助成』（補助率 10/10）、『伝統芸能体験活動助成』（補助率 1/2）を新設 『芸術文化による社会支援助成』の助成上限額を 100 万円から 200 万円に、さらに長期的支援の枠組を増設 『ライフウィズアート助成』（補助率 1/2 上限 2,000 万円）を新設

先行する 3 プログラムの助成実績（累計）

○東京芸術文化創造発信助成

東京における多様な創造活動や、国際的な創造活動発信活動を支援（2012 年度～2021 年度）

申請件数 2,959 件

採択件数 1,065 件、交付決定総額 約 14 億 1,400 万円

○芸術文化による社会支援助成

あらゆる人が参加できる創造活動等や、社会や都市の課題に取り組む芸術文化活動を支援（2015 年度～2021 年度）

申請件数 296 件

採択件数 111 件、交付決定総額 約 8,500 万円

○東京地域芸術文化助成

東京における各地域の多様な文化的特徴をかたちづくり、国内外に広く発信する事業を支援（2015 年度～2021 年度）

申請件数 191 件

採択件数 105 件、交付決定総額 約 5,800 万円

主なオリンピック文化プログラム

東京キャラバン

2015年、東京キャラバンは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムを先導する東京都のリーディングプロジェクトとしてスタート。総監修・野田秀樹の発案による“文化混流”をコンセプトに、国内外16カ所で言語や表現ジャンルを超えた多種多様なアーティストたち総勢300名が参加し、各地で新たに創作したパフォーマンスを披露。

●開催地

2015年：駒沢

2016年：リオデジャネイロ、東北（仙台、相馬）、六本木

2017年：京都、八王子、熊本

2018年：豊田、高知、秋田

2019年：いわき、埼玉（中止）、富山、岡山、北海道

2020年：（中止）

2021年：駒沢（中止）

●累計参加者数

約63,000人

TURN

TURNとは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト。これまでに約80名のアーティスト、約60の施設や団体が参加している。

アーティストが、福祉施設や社会的支援を必要とする人々のコミュニティへ赴き、出会いと協働活動を重ねる「TURN 交流プログラム」と、TURNの活動が日常的に実践される場を地域に作り出す「TURN LAND」を基本に据え、「TURN ミーティング」と「TURN フェス」の開催によって広くその意義を発信。さらに、それらの活動を伝えるメディアとして「TURN JOURNAL」を刊行。

●累計参加者数

2015～2021年：約96,000人（オンライン含む）

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

東京都は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に東京の芸術文化の魅力を力強く発信することを目指し、2016 年のリオデジャネイロ大会後から 2021 年の東京 2020 大会終了までの期間に文化プログラムを展開。この、都の文化プログラムが「Tokyo Tokyo FESTIVAL」(TTF)である。

TTF の中核を彩る事業として、国内外から応募のあった 2,436 件から選定した 13 の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」と総称し、展開。

企画名：「The Constant Gardeners」

企画者：Jason Bruges Studio (イギリス)

実施時期：2021 年 7 月 28 日～9 月 5 日

実施場所：上野恩賜公園

企画名：「隅田川怒涛」

企画者：特定非営利活動法人トッピングイースト

実施時期：春会期 2021 年 5 月 22 日・23 日、夏会期 2021 年 8 月 13 日～9 月 5 日

実施場所：隅田川周辺、オンライン

企画名：「世界無形文化遺産フォーラム」

企画者：公益社団法人全日本郷土芸能協会

実施時期：2021 年 8 月 1 日

実施場所：ヒューリックホール東京

企画名：「DANCE TRUCK TOKYO」

企画者：全日本ダンストラック協会

実施時期：2019 年 9 月 5 日～2021 年 9 月 5 日

実施場所：東京都区部・多摩地区、島しょ部

企画名：「東京大壁画」

企画者：株式会社ドリル

実施時期：2021 年 7 月 17 日～9 月 5 日

実施場所：丸の内ビルディング、新丸の内ビルディング

企画名：「TOKYO SENTO Festival 2020」

企画者：TOKYO SENTO Festival 2020 実行委員会

実施時期：2021 年 5 月 26 日～9 月 5 日

実施場所：都内銭湯約 500 か所

企画名：「TOKYO REAL UNDERGROUND」

企画者：特定非営利活動法人ダンスアーカイヴ構想

実施時期：2021 年 4 月 1 日～8 月 15 日

実施場所：都内、オンライン

企画名：「パピリオン・トウキョウ 2021」
企画者：パピリオン・トウキョウ 2021 実行委員会（ワタリウム美術館）
実施時期：2021 年 7 月 1 日～9 月 5 日
実施場所：都内 10 カ所

企画名：「光の速さ -The Speed of Light-」
企画者：Marco Canale（アルゼンチン）
実施時期：2021 年 5 月 22 日・23 日
実施場所：世田谷区太子堂八幡神社 ほか

企画名：「放課後ダイバーシティ・ダンス」
企画者：ADD 実行委員会
実施時期：2019 年 9 月～2021 年 8 月
実施場所：港区、国立市、日の出町、オンライン

企画名：「まさゆめ」
企画者：目 [mé]
実施時期：2021 年 7 月 16 日、8 月 13 日
実施場所：代々木、隅田川周辺

企画名：漫画「もしも東京」展
企画者：漫画「もしも東京」展実行委員会
実施時期：2021 年 8 月 4 日～9 月 5 日
実施場所：東京都現代美術館

企画名：「Light and Sound Installation “Coded Field” ～光と音が織りなす都市と人々の饗宴～」
企画者：ライゾマティクス
実施時期：2019 年 11 月 16 日
実施場所：浄土宗大本山増上寺ほか

●**累計参加者数**

約 50 万人（オンライン含む）

芸術文化創造・発信事業（フェスティバル事業）

六本木アートナイト エリア：六本木地区（港区）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合（五十音順）】

●**累計参加者数**

2015～2020 年（2021 年は中止）：約 400 万人（オンライン含む）

東京大茶会

エリア：浜離宮恩賜庭園（中央区）、江戸東京たてももの園（小金井市）
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
共催：公益財団法人東京都公園協会（浜離宮恩賜庭園）
 ●累計参加者数
 2015～2021年（2020年は中止）：約10万人（オンライン含む）

神楽坂まち舞台・大江戸めぐり

エリア：神楽坂界限（新宿区）
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 粋なまちづくり倶楽部
助成・協力：東京都
共催：新宿区
 ●累計参加者数
 2015～2021年：約24万人（オンライン含む）

**伝承のたまてばこ
～多摩伝統文化
フェスティバル～**

エリア：八王子駅北口等（八王子市）
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
助成・協力：東京都
 ●累計参加者数
 2016～2021年（2020年は中止）：約15万人（オンライン含む）

**Shibuya
StreetDance
Week**

エリア：代々木公園、渋谷地区（渋谷区）
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、Shibuya StreetDance Week 実行委員会【渋谷区商店会連合会、渋谷道玄坂商店街振興組合、東急株式会社、株式会社パルコ】
共催：渋谷区
助成・協力：東京都
 ●累計参加者数
 2015～2021年：約21万人（オンライン含む）

東京芸術祭

メイン会場：東京芸術劇場（豊島区）
主催：東京芸術祭実行委員会【豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）】
 ●累計参加者数
 2016～2021年：約71万人（オンライン含む）

恵比寿映像祭

メイン会場：東京都写真美術館（目黒区）
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京、日本経済新聞社
共催：サッポロ不動産開発株式会社、公益財団法人日仏会館
 ●累計参加者数
 2015～2021年：約41万人（オンライン含む）

Music Program TOKYO

メイン会場：東京文化会館（台東区）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館・アーツカウンシル東京

●累計参加者数

2015～2021年：約21万人（オンライン含む）

芸術文化創造・発信事業（参加・体験事業）

キッズ伝統芸能体験 主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕

制作協力：公益社団法人能楽協会、公益社団法人日本舞踊協会、公益社団法人日本三曲協会、一般社団法人長唄協会

●累計参加者数（観覧者を除く）

2015～2021年：約4,400人（短期プログラムを含む）

パフォーマンスキッズ・トーキョー 主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人芸術家と子どもたち

助成・協力：東京都

会場：学校（特別支援学校含む）、ホール、児童養護施設、障害児入所施設等

●累計参加者数（観覧者を除く）

2015～2021年：約6,000人（オンライン含む）

子供のための 伝統文化・芸能体験

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕

助成・協力：東京都

会場：学校（特別支援学校含む）

●累計参加者数（観覧者を除く）

2015～2021年：約21,200人（オンライン含む）

東京アートポイント計画 (以下、事業の主催者には全て、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が入る。) 事業開始は2009年、本項では2015年以降について記載

- **TERATOTERA (～2020)**
会場：杉並区、武蔵野・多摩エリア
共催：一般社団法人 Ongoing
- **小金井アートフル・アクション! (～2020)**
会場：小金井市
共催：小金井市、特定非営利活動法人アートフル・アクション
- **としまアートステーション構想 (～2016)**
会場：豊島区内各所
共催：豊島区、一般社団法人オノコロ
- **アートアクセスあだち 音まち千住の縁 (～2021)**
会場：足立区千住地域ほか
共催：東京藝術大学音楽学部・大学院国際芸術創造研究科、特定非営利活動法人音まち計画、足立区
- **長島確のつくりかた研究所：だれかのみたゆめ (～2015)**
会場：都内各所
共催：一般社団法人ミクストメディア・プロダクト
- **汐入タワープログラム (～2017)**
会場：都立汐入公園
共催：荒川区、一般社団法人 CIAN
- **Art Bridge Institute (～2016)**
会場：アーツ千代田 3331 ほか
共催：特定非営利活動法人 Art Bridge Institute
- **AKITEN (～2015)**
会場：八王子市
共催：特定非営利活動法人 AKITEN
- **トッピングイースト (～2018)**
会場：東東京エリア
共催：特定非営利活動法人トッピングイースト
- **TOKYO FABBERS (～2015)**
会場：都内各所
共催：FabCafe LLP
- **三原色 (ミハライロ) (～2016)**
会場：大島各所
共催：特定非営利活動法人 kichi
- **リライトプロジェクト (～2017)**
会場：六本木ヒルズけやき坂《Counter Void》前ほか
共催：特定非営利活動法人インビジブル

- **東京迂回路研究 (～2016)**
会場：都内各所
共催：特定非営利活動法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所
- **東京スूपとブランケット紀行 (～2017)**
会場：練馬区江古田ほか
共催：一般社団法人指輪ホテル
- **東京ステイ (2016～2018)**
会場：都内各所
共催：特定非営利活動法人場所と物語
- **Between's Passport Initiative (2016～2018)**
会場：新宿区ほか都内各所
共催：一般社団法人 kuriya
- **500年のcommonを考えるプロジェクト「YATO」(2017～2021)**
会場：町田市忠生エリア
共催：社会福祉法人東香会
- **HAPPY TURN / 神津島 (2017～)**
会場：神津島
共催：一般社団法人シマクラス神津島 (2021～)
- **Artist Collective Fuchu[ACF] (2018～)**
会場：府中市
共催：特定非営利活動法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ
- **ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—(2018～)**
会場：墨田区内各所
共催：一般社団法人藝と (2021～)
- **移動する中心 | GAYA (2019～2022)**
会場：世田谷文化生活情報センター生活工房ほか
共催：特定非営利活動法人記録と表現とメディアのための組織 [remo]、公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
- **東京で (国) 境をこえる (2019～2021)**
会場：世田谷区経堂
共催：一般社団法人 shelf
- **ACKT (アクト/アートセンタークニタチ) (2021～)**
会場：国立市全域
共催：国立市、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団、一般社団法人 ACKT
- **多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting (2021～)**
会場：多摩エリア
共催：特定非営利活動法人アートフル・アクション

人材育成事業

アーツアカデミー

- 調査員制度 (2012～2017)

● 調査員数

25 人

- 芸術文化創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座 (2018 ～)

● 受講者数

2018 ～ 2021 年：65 人 (オンライン開催含む)

- 芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座 (2021 ～)

● 受講者数

2021 年：578 人 (オンライン開催)

- 東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修 (2013 ～)

● 実務研修修了者数

2013 ～ 2021 年：38 人

● 修了生の主な就職・活動先

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場／東京文化会館、一般財団法人北上市文化創造 北上市文化交流センター、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館／アーツカウンスル新潟、独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館／国立映画アーカイブ、公益財団法人練馬区文化振興協会 練馬文化センター、豊岡演劇祭実行委員会、独立行政法人国際交流基金、公益財団法人岡山文化芸術創造 岡山芸術創造劇場、公益財団法人静岡県舞台芸術センター (SPAC)、公益財団法人セゾン文化財団、一般財団法人地域創造、一般財団法人長野県文化振興事業団信州アーツカウンスル、公益財団法人沖縄県文化振興会 沖縄アーツカウンスル、公益財団法人高知県文化財団 アーツカウンスル高知、学校法人跡見学園 跡見学園女子大学、学校法人和光学園 和光大学、特定非営利活動法人 Explat、公益財団法人現代人形劇センター デフ・パペット・シアターひとみ、公益財団法人日本オペラ振興会、森ビル株式会社、特定非営利活動法人シニア演劇ネットワーク、株式会社東急文化村、ほろびて、agaxart、株式会社ワコールアートセンター、特定非営利活動法人シアターアクセシビリティ・ネットワーク、国立奥多摩美術館、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂、株式会社 artness、株式会社エリア 51、公益財団法人立川市地域文化振興財団、一般社団法人 Japan Film Project など

Tokyo Art Research Lab

● 受講者数

2015～2021 年：1,481 人

● 修了生の主な活動先

特定非営利活動法人 Art' s Embrace、特定非営利活動法人トッピンググイースト、一般社団法人 Ongoing、一般社団法人 kuriya、特定非営利活動法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ、特定非営利活動法人記録と表現とメディアのための組織 [remo]、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンスル東京／東京芸術劇場、とびらプロジェクト (東京都美術館)、フェスティバル／トーキョー実行委員会、公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団、協働ステーション中央、隅田川 森羅万象 墨に夢 (公益財団法人墨田区文化振興財団)、一般社団法人

人 Teracollective、特定非営利活動法人アーツセンターあきた、特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT、水と土の芸術祭実行委員会、中之条ビエンナーレ、社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館、公益財団法人沖縄県文化振興会 沖縄アーツカウンシル、那覇文化芸術劇場なはーと、特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ、独立行政法人国際交流基金 国際交流基金アジアセンター、特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス、アート NPO ヒミング、アートマネジメントオフィス ahoy!、公益財団法人福武財団、一般社団法人ノマドプロダクション、宮崎県立美術館、特定非営利活動法人まる など

タレンツ・トーキョー ●参加者の主な実績

- ビアンカ・バルブエナ (2012) プロデュース『痛ましき謎への子守唄』(ラヴ・ディアス監督) ベルリン国際映画祭銀熊賞<2016年>
- ギタ・ファラ (2016)プロデュース『見えるもの、見えざるもの』(カミラ・アンディニ監督) トロント映画祭プラットフォーム部門、東京フィルメックス最優秀作品<2017年>
- ヨー・シュウホア (2015) 監督『幻土』ロカルノ国際映画祭金豹賞 (最優秀作品賞)<2018年>
- ニアン・カヴィッチ (2016) 監督『昨夜、あなたが微笑んでいた』ロッテルダム国際映画祭 NETPAC 賞 (最優秀アジア映画賞)<2019年>
- 小田香(2015)監督、第1回大島渚賞、『セノーテ』が山形国際ドキュメンタリー映画祭、ロッテルダム国際映画祭に招待される、芸術選奨文部科学大臣新人賞<2020年>
- アリックス・アイン・アルンパック (2015) 監督、アーミ・レイ・カカニンディン(2014) プロデュース『アスワン』フィリピンアカデミー賞最優秀作品賞、最優秀ドキュメンタリー賞<2020年>
- カロ・フランシスコ・マナド (2010) 監督、アーミ・レイ・カカニンディン(2014) プロデュース『Whether the Weather is Fine』ロカルノ国際映画祭 Cinema e Gioventù Prize<2021年>
- 早川千絵 (2014) 監督、水野詠子 (2019) プロデュース、アレンバーグ・アン (2014) コ・プロデュース『PLAN75』カンヌ国際映画祭カメラ・ドール (最優秀新人監督賞) スペシャル・メンション<2022年>

※()内は参加年

国際ネットワーク事業

アーツカウンシル・フォーラム

- 2012年度**：「日本におけるアーツカウンシルの役割を考える」
- 2013年度**：「オリンピック・パラリンピックと文化プログラムーロンドン 2012 から東京 2020 へ」
- 2014年度**：「都市と地域の未来に向かう文化機関の役割ーアジアの社会課題と文化政策」
- 2015年度**：「アート、テクノロジー、市民社会」
- 2016年度**：「新たなアイデアへの挑戦ー文化プログラムに活かせる価値転換の取組」
- 2017年度**：「新しい社会システムの表現者たちー領域を超えたアプローチが導く文化と都市の未来」
- 2018年度**：「多様性を超えてー包摂社会が生み出す創造性」
- 2019年度**：「芸術文化が都市の空間と時間を拡張する」
- 2020年度**：①「# THE FUTURE IS ART 明日を拓くマネジメント」
②「# THE FUTURE IS ART 明日を拓くパートナーシップの力」
- 2021年度**：「表現者を支えるプロデュースと目利き力」

アーツカウンシル東京設立の経緯

アーツカウンシル東京の設立については、平成 17 年度より、知事の諮問機関の議論の中でその必要性が提案されていた。平成 18 年度に東京都文化振興条例を改正し、平成 19 年に文化振興のための施策を総合的かつ効果的に推進するための政策提言を行う知事の附属機関として「東京芸術文化評議会」が設置された。その「芸術文化評議会」での議論を経て、平成 23 年の東京都長期計画に位置付けられ、平成 24 年に、公益財団法人東京都歴史文化財団内に設置された。

平成 24 年 4 月に、「アーツカウンシル東京準備機構」を東京都歴史文化財団内に設置、同年 11 月に「アーツカウンシル東京」として正式にスタートした。

※以下に、平成 24 年 11 月に開催された「アーツカウンシル東京」発足記念フォーラムにおける、当時の東京芸術文化評議会会長 福原義春氏の講演抜粋を掲げる。

「アーツカウンシル東京」発足記念フォーラム

東京芸術文化評議会会長 福原義春氏 講演より抜粋

アーツカウンシル東京の発足にあたり、その設置について何年間か議論を重ねて提案をした東京芸術文化評議会の会長として、その経緯について説明いたします。

2007 年 12 月に東京都が設置した東京芸術文化評議会は、芸術文化に関する諸政策を国と都が協働して推進するために、「文化芸術の力で日本にクリエイティブな活力を」という提言を 2010 年に発表しました。その骨子は、まず第一に、文化を成長戦略の重要な軸としてとらえて国策を再構築し、文化への投資で日本に活力を与えるというもの。二番目に、次世代の人材育成や民間による文化芸術支援を促進していくこと。さらに三番目の提言として、国と地方が各々のタテ割りのミッションを超え、さらに官民が協力できるような仕組みづく

りについて言及しました。

その三番目の提言、具体的な「仕組みづくり」について評議会で議論を深めた結果、2011年10月27日の文化都市政策検討部会で、芸術文化の推進体制に向けてアーツカウンシル東京の設置を報告した次第です。

私は本来、企業経営者ですが、これからの社会における企業のあり方を模索しているうちに、文化を基軸にして企業を変革しなければならないと思うようになりました。

そもそも20世紀までの企業活動は、短期的な利潤の追求に重点を置きすぎ、極端に言えば企業は自然環境の破壊や人間性の喪失につながるような、社会に負荷をかけながら巨大化していく怪物のような存在になってしまいました。私は、その原因は、単なるお金とモノの交換、あるいはお金とサービスの交換だけを資本の流れとする現在の資本主義社会の原理にあるのではないかと疑うようになりました。そして、社会をよりよく動かすための新しい理として、「文化」という要素を企業経営の基軸に置くことができないかと考えたわけです。そして、企業経営に必要な要素として考えられてきたヒト・モノ・カネに、もう一つ「文化」というものを第四の要素として加え、拡大再生産が可能なストックとして文化をとらえる、「文化資本経営」を提唱してきました。

さらに、様々な試行錯誤をしながら、文化的な要素で個人の人間力を最大に引き出し、文化的な多様性を取り入れて組織を活性化することで、絶対価値の創造ができるのではないかと考えました。今、多くの組織や個人が相対価値の競争に陥って悩んでいる中で、絶対価値を確立できれば持続的な成長も可能であるという確信を得たのです。企業組織、企業経営の変革を考えているうちに、組織の社会性や文化の重要性に改めて気づいたのですが、さらにその延長線上で、文化を基軸としたイノベーションは、非営利の組織づくりや地域政策などにも応用できるのではないかと、この考えで、企業だけでなく社会全体を変革できるのではないだろうかと思うようになったわけです。

このように文化を基軸とした社会変革を考えていた時に、当然、英国のアーツカウンシルのことが頭に浮かびました。ただし、いろいろな点から、英国の制度というのは必ずしも日本の制度にはなじみません。ひとつには、アーツカウンシルは運営も予算も完全に独立していますが、日本ではなかなか難しいということがあります。とはいえ、このように財政・行政とアームズ・レングスの距離にある、政治と無関係な機関で文化をハンドリングするというのも、日本の文化政策のあるべき姿のひとつではないかというふうに考えています。

そもそも日本文化は、江戸時代の一部の大名による稀な例を除けば、基本的には民間の力による創造と発信によって推進されてきたもので、国家や政治によるコントロールとは必ずしもなじまないと私は考えてきました。そこで先述のように、財政・行政とアームズ・レンダス関係の、つまり互いに適度な距離で牽制し合いながら独立性を保って活動できる機関を、日本の社会あるいは政治の中でどう作ることができるのかということ、皆さんと一緒に研究しました。そして一番インパクトの強い方法を考えたとき、やはり日本の首都であって世界最大のメガシティである東京に、そのような文化装置をつくる必要があるのではないかと考えました。このような経緯から、アーツカウンシル東京はそのような機能を持ちながら、知事の諮問にお答えし、文化のあるべき姿を提言するという役割を担うわけです。

19 ロンドン、パリ、ニューヨーク、あるいは東京のようなメガシティの文化力は、ある意味、その国の文化を象徴するものです。例えば人口 30 万の都市とメガシティでは完全にキャパシティも違い、発信力も全く異なります。東京は人口密度が連続するような都市的集積地域としては世界最大のメガシティです。多くのエリアとスポットで活発な文化活動が同時に行われています。東京では世界的なシンフォニー・オーケストラの演奏を毎日のように聴くことができます。その量も質も、地方都市であれば何年に一度というようなレベルの公演が集中しているのです。ミュージアムの展覧会にしても都内の至るところで世界の名画を同時に鑑賞できます。しかし、そのような東京の状況、影響力は拡散して日々の情報の中で埋没しがちで、文化が市民に自信を与えて社会を活性化し、日本の存在感を世界に示すということには必ずしもなっていない。私は、そこにはマネジメントの問題があると考えています。文化生産の現場の力を支えながら、クリエイションの方向性を示し、創造された文化を編集して個人や社会に衝撃を与え、それによる摩擦や反発も含んだ感動の力を次の文化生産への原動力として、サイクルを回し続けることができるのではないか。そのための全く新しい組織のあり方を考えるべきだと考えた次第です。

そのような運動を実現するべく、文化生産プロデューサーやミュージアムのキュレーターの企画力と発信力をレベルアップして、日本で創造された文化を海外に広めていく、そのようなことのできるプロデューサーやディレクターをこの東京の中で育てていく必要があるだろう。そして、東京で、あるいは日本国内で話題になるだけでなく、世界の話題となり、世界から東京に人を呼び寄せるような文化の絶対価値を創造できるような文化生産を考えなければならないと考えました。

メガシティ東京には、既に文化のポテンシャルが十分にありますが、それを編集しなおして、総合的な「場」の魅力に仕立て上げるために、個々の企画者の創造力、そして財政や政治の動きに左右されることなく、創造されたオリジナルな文化を統合して発信する、そのような装置の力が必要なのです。

東京芸術文化評議会がアーツカウンシル東京の設置を呼びかけた背景には、以上のような考えがありました。東京を、国際都市にふさわしい個性豊かな文化を創造する、質の上でも世界最高のメガシティにすること。そして東京からの波及効果によって、創造性に満ちた潤いのある地域社会の姿を日本各地に構築すること。同時に、世界に向けた東京の文化発信力を高めること、これがゴールです。もちろんこのような成果が一朝一夕に現れるとは考えていません。ですから、アーツカウンシル東京の発足にあたってもう一つ言いたいことは、湧き上がった個々の文化力が統合され、爆発するまでには、熟成のための一定の時間が必要だということを私たちが良く認識しておかなければならないということです。さらに、国家や企業ではなかなか踏み出すことのできない、一見必要性のないもの、あるいは評価がまだ定まっていないものに可能性を見出して育てていくということが大切だと考えます。

日本人はあまり気づいていませんが、私は日本文化というのは既に世界的な価値になっていると認識しています。そして、日本にはまだまだ多くの文化資産が残っています。また、その一部は私たちが気づかないうちに伝統になってしまっています。ですから、私たちは自分たちの創造が世界の生活向上、または世界中の人の精神の豊かさにさらに役立つということについて自信を持っていいのです。アメリカとは違い、フランスとも違い、英国とも違う日本のアイデンティティというのは一体何か。これからは、日本のアイデンティティ、日本の「型」をもう一度確立した上で、国内仕様の文化を国際仕様に変換し、しかももとのアイデンティティを損なうことなく、全体として日本性が感じられるような価値を創造することが我々の課題であると認識しています。

もはや経済価値の積み上げだけでは世界は動きません。誰もがそのことに気がついていません。今こそ、歴史や人間の知恵に裏づけられた文化力が必要なのです。アーツカウンシル東京の発足を出発点として、文化による社会変革が起こることを期待しています。



アーツカウンシル東京の10年 (2012-2021)

公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京 企画部

ウェブサイト：www.artscouncil-tokyo.jp/